

**令和4年度 新人看護職員研修事業委託業務
公募型プロポーザル説明書**

1 趣旨

奈良県の看護職員確保を図るため、看護職員を対象とした各種研修事業の企画・運営に係る業務を委託する事業者を公募型プロポーザル方式により選定します。

2 業務概要

(1) 名称

令和4年度 新人看護職員研修事業委託業務

(2) 業務の内容及び委託料上限額

次に掲げる事業の企画・運營業務

新人看護職員研修事業（業務の内容は別添事業委託仕様書に記載のとおり）

2, 192千円（うち取引に係る消費税及び地方消費税に相当する額を含む。）

内訳）新人看護職員集合研修	1, 024千円
研修責任者・教育担当者研修	479千円
実地指導者研修	689千円

(3) 契約期間

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(4) 留意事項

本事業の実施については令和4年度予算成立を条件としているため、予算成立状況により契約を行わない場合や委託金額、委託期間等を見直した上で再募集を行う場合があります。また、国の交付金等の状況により、契約内容を変更する場合があります。なお、いずれの場合においても、本事業の受託者募集に要した経費を請求することはできません。

3 参加資格

次に掲げる要件のすべてに該当する者とします。

- (1) 地方自治法施行令（昭和22年政令第16号）第167条の4の規定に該当しない者であること。
- (2) 奈良県の物品購入等に係る競争入札の参加資格等に関する規程（平成7年12月奈良県告示第425号）による競争入札参加資格者名簿に登録している者にあつては、参加申込書提出時点において、奈良県物品購入等の契約に係る入札参加停止等措置要領による入札参加停止の措置の期間中でないこと。
- (3) 会社更生法（平成14年法律第154号）第17条の規定による更生手続開始の申立て（同法附則第2条の規定によりなお従前の例によることとされる更生事件（以下「旧更生事件」と

- いう。)に係る同法による改正前の会社更生法(昭和27年法律第172号。以下「旧法」という。)第30条に規定する更生手続開始の申立てを含む。)をしていない者又は申立てをなされていない者であること。ただし、同法に基づく更生手続開始の決定(旧更生事件に係る旧法に基づく更生手続開始の決定を含む。)を受けた者については、更生手続開始の申立てをしなかった者又は申立てをなされなかった者とみなす。
- (4) 平成12年3月31日以前に民事再生法(平成11年法律第225号)附則第2条による廃止前の和議法(大正11年法律第72号)第12条第1項の規定による和議開始の申立てをしていない者であること。
- (5) 平成12年4月1日以降に民事再生法第21条の規定による再生手続開始の申立てをしていない者又は申立てをされていない者であること。ただし、同法に基づく再生手続開始の決定を受けた者であっても、再生計画の認可の決定を受けた者については、再生手続開始の申立てをしなかった者又は申立てがされなかったものとみなす。
- (6) 役員等(法人にあっては非常勤を含む役員及び支配人並びに支店又は営業所の代表者、その他の団体にあっては法人の役員と同等の責任を有する者、個人にあってはその者及び支配人並びに支店又は営業所を代表する者をいう。以下同じ。)が暴力団員(暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律(平成3年法律第77号。以下「暴対法」という。)第2条第6号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。)でないこと。
- (7) 暴力団(暴対法第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下同じ。)又は暴力団員が経営に実質的に関与していないこと。
- (8) 役員等が、自社、自己若しくは第三者の不正な利益を図り、又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用していないこと。
- (9) 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して資金等を提供し、又は便宜を供与するなど直接的若しくは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、又は関与していないこと。
- (10) 役員等が、暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有していないこと。
- (11) 公告の日から過去5年以内に、国又は地方公共団体から看護職員を対象とした研修に関する業務を受託し、誠実に履行した実績があること。

4 提出書類

プロポーザルに参加を希望する事業者は、次の書類を作成して提出してください。

なお、責任の所在を明確にする観点から、共同提案は受け付けません。

- (1) 参加申込書の提出 各1部
- ア 参加申込書 (様式1)
- (2) 企画提案書の提出 各正1部 副5部
- ア 企画提案書(表紙) (様式2)
- イ 事業者概要書 (様式3)
- ウ 同種又は類似の業務実績 (様式4)

公告の日から過去5年以内に、国又は地方公共団体から看護職員を対象とした研修を受託

した実績を記載すること。

エ 実施体制 (様式5)

研修責任者及び担当者が、新人看護職員が看護技術の要素を獲得できるような研修又は新人教育担当者が院内研修に必要な能力を獲得できるような研修を適切に企画、実施できるよう、看護知識・技術、教育に係る知識、組織マネジメントに係る経歴・実績を有していることが分かるように記載すること。

オ 事業計画書 (様式6)

- ・新人看護職員の看護実践能力の基礎形成、看護専門職業人としての責任・役割の理解並びに新人看護職員を支える教育担当者等の指導力向上が効果的に達成されるような研修内容を記載すること。
- ・新型コロナウイルス対策のため看護学校での現場実習の機会が平常時より減少していることを踏まえ、新人看護職員のリアリティショックへの対応に配慮した研修内容について記載すること。
- ・受講者が参加しやすいような研修スケジュールとすること。
- ・研修の定員を収容することができる計画を記載すること。併せて収容上限となる定員を示すこと。

カ 感染防止対策 (様式7)

- ・e-ラーニング・オンライン受講の活用等、受講にあたっての感染リスクを軽減する工夫について具体的に示すこと。
- ・会場、受講者、講師・職員について、「人と人の距離の確保」「マスクの着用」「手洗いなどの手指衛生」等、感染防止対策を具体的に示すこと。

キ 見積書 (様式8)

- ・本事業において実施する「新人看護職員集合研修」「研修責任者・教育担当者研修」「実地指導者研修」について、それぞれの事業費を区別できるよう作成すること。

(※) 上記ア～キの企画提案書等については、原本以外は提案者を特定することができる内容の記述(社名、印鑑、ロゴマーク、コーポレートカラー等)を記載してはいけません。記載がある場合は、その項目を無効とします。

5 参加申込書の提出

(1) 提出期限

令和4年3月10日(木)の午後4時まで

(2) 提出方法及び提出先

提出方法は、持参又は郵送によるものとします。

なお、郵送による場合は、書留郵便によることとし、令和4年3月10日(木)午後4時までに到着したものに限り受け付けます。

提出先は「13 問い合わせ先」に同じです。

(3) 提出書類

4 (1) で示す書類

6 質問及び回答

(1) 質問受付期限

令和4年3月9日（水）の午後4時まで

(2) 質問方法

別紙質問票（様式9）に質問内容を記入し、事前に電話連絡の上、ファクシミリ又は電子メールにより提出してください（審査の内容に関係しない軽易な質問を除き、電話又は口頭による質問は受け付けません。）。

連絡先・提出先は「13 問い合わせ先」に同じです。

(3) 回答方法

各事業者からの質問については、参加申込書の提出があった全事業者あて、令和4年3月15日（火）午後4時までにファクシミリで回答します。併せて、回答内容をホームページ上で公表します。

7 企画提案書の提出

(1) 提出期間

令和4年3月18日（金）の午後4時まで

(2) 提出方法及び提出先

提出方法は、持参又は郵送によるものとします。

なお、郵送による場合は、書留郵便によることとし、令和4年3月18日（金）午後4時までに到着したものに限り受け付けます。

提出先は「13 問い合わせ先」に同じです。

(3) 提出書類

4（2）で示す書類

8 企画提案書の審査

(1) 最優秀提案者の選定及び審査基準

提出された企画提案書について、「奈良県新人看護職員研修事業委託事業者選定委員会」（以下「委員会」という。）において、別紙1の審査基準に基づき審査を行うものとし、各委員の評価点を合計した点数が最も高い者を最優秀提案者として選定します。

(2) プレゼンテーション及びヒアリングの実施

提出された企画提案書の審査については、以下の通りプレゼンテーション及びヒアリングを行います。なお、プレゼンテーション及びヒアリングを欠席した場合は失格とします。

① プレゼンテーション及びヒアリングの日時・場所は以下を予定しています。

日時：令和4年3月24日（木）（予定）

場所：奈良県中小企業会館 会議室（2）（予定）

なお、時間等詳細については、後日、対象者に対して通知します。

- ② プレゼンテーション及びヒアリングの出席者は3名までとします。
- ③ プレゼンテーション及びヒアリングの時間配分は1提案者あたり20分（内訳はプレゼンテーション10分、ヒアリング10分）とします。

(3) 審査結果の通知

審査の結果は、企画提案書を提出された全事業者あて、書面により通知します。

併せて、審査の結果をホームページ上で公表します（最優秀提案者以外の応募者名は表示しません。）。

9 委託契約の締結について

審査の結果、選定された最優秀提案者を受託者として、奈良県契約規則に基づき委託契約を締結します。

契約額は、企画提案書に記載された所要経費の見積額がそのまま採用されるのではなく、最優秀提案者との協議により業務仕様書を確定した後に決定します。また、契約に際しては、正式の見積書を提出することになります。なお、この協議が不調に終わった場合には、原則、審査において次点となった事業者を受託者として、同様の手続を行うこととします。

10 契約の不締結

最優秀提案者の選定後、契約締結までの間に、最優秀提案者について次のいずれかに該当する事由があると認められるときは、契約を締結しないものとします。

- (1) 最優秀提案者の役員等（法人にあっては役員（非常勤の者を含みます。）、支配人及び支店又は営業所（常時契約に関する業務を行う事務所をいいます。以下同じ。）の代表者を、個人にあってはその者、支配人及び支店又は営業所の代表者をいいます。以下同じ。）が暴力団員（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号。以下「法」といいます。）第2条第6号に規定する暴力団員をいいます。以下同じ。）であるとき。
- (2) 暴力団（法第2条第2号に規定する暴力団をいいます。以下同じ。）又は暴力団員が経営に実質的に関与しているとき。
- (3) 最優秀提案者の役員等が、その属する法人、自己若しくは第三者の不正な利益を図る目的で、又は第三者に損害を与える目的で、暴力団又は暴力団員を利用しているとき。
- (4) 最優秀提案者の役員等が、暴力団又は暴力団員に対して資金等を提供し、又は便宜を供与する等直接的若しくは積極的に暴力団の維持及び運営に協力し、又は関与しているとき。
- (5) (3) 及び (4) に掲げる場合のほか、最優秀提案者の役員等が、暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有しているとき。
- (6) この契約に係る下請契約又は資材及び原材料の購入契約等の契約（以下「下請契約等」といいます。）に当たって、その相手方が (1) から (5) までのいずれかに該当することを知らなから、当該者と契約を締結したとき。

(7) この契約に係る下請契約等に当たって、(1) から (5) までのいずれかに該当する者をその相手方としていた場合 ((6) に該当する場合を除きます。) において、本県が当該下請契約等の解除を求めたにもかかわらず、それに従わなかったとき。

11 契約の解除

契約締結後、契約者について 10 の (1) から (7) までのいずれかに該当する事由があると認められるとき又はこの契約の履行に当たって、暴力団又は暴力団員から不当に介入を受けたにもかかわらず、遅滞なくその旨を本県に報告せず、若しくは警察に届け出なかったと認められるときは、契約を解除することがあります。この場合は、契約者は、損害賠償金を納付しなければなりません。

なお、10 の (1)、(3)、(4) 及び (5) 中「最優秀提案者」とあるのは、「契約者」と読み替えるものとします。

12 その他

- (1) 手続において使用する言語及び通貨は、日本語及び日本国通貨に限ります。
- (2) 提出されたすべての書類は返却しません。なお、本プロポーザルに係る審査以外には使用しません。
- (3) 必要に応じ、追加資料の提出を求めることがあります。
- (4) 一旦提出された書類の差し替え及び追加、削除は、原則として認めません。
- (5) 提出書類の作成、提出等に要する費用は各事業者の負担とします。
- (6) 応募者が次の事項に該当した場合は、失格とする。
 - ① 上記 3 に示した参加資格が備わっていないとき。
 - ② 提出書類に虚偽又は不正があったとき。
 - ③ 提出のあった提案書等が様式及び記載すべき事項に適合せず、県の定めた期日までにその補正に応じないとき。
 - ④ 一以上の審査項目についての記載がなかったとき。
 - ⑤ 内訳ごとの委託上限金額を超える見積書が提出されたとき。
 - ⑥ その他不正な行為があったとき。
- (7) 提出書類を提出後に、応募者が入札参加停止等の事由に至った場合は、以後の本件に関する手続の資格を失うものとします。
- (8) 提出書類を提出した後に辞退する場合は、速やかに奈良県まで連絡するとともに、書面により届けてください。
- (9) 受託者は、本件業務を第三者に委託し、又は請け負わせることはできません。ただし、あらかじめ奈良県の承認を受けた場合はこの限りではありません。
- (10) 別紙 2 「公契約条例に関する遵守事項 (特定公契約以外用) を遵守するものとします。
- (11) その他定めのない事項については、地方自治法、同法施行令及びその他関係法令並びに奈良

県個人情報保護条例、奈良県契約規則及びその他の奈良県が制定する関係条例・規則等に従うものとします。

- (12) 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、出社ができない等の理由により、本説明書中4（1）及び（2）に規定する参加申込書及び企画提案書に関し、それぞれ定める提出期限までに代表者印の押印ができない場合は、代表者印の押印がない書類の提出も可とします。この場合は、押印できない理由を可能な限り具体的に記した理由書を併せて提出してください。

13 問い合わせ先

奈良県福祉医療部医療政策局地域医療連携課医師・看護師確保対策室看護師対策係

〒630-8501 奈良市登大路町 30 番地 奈良県庁主棟 3階

TEL : 0742-27-8655 (ダイヤルイン)

FAX : 0742-27-7811

新人看護職員研修事業 業務委託事業者選定に係る審査基準

審査対象事項

審査項目	審査基準	配点	基本 点数	評価 係数
		①×②	①	②
1 業務実績 (10点)	① 医療機関や看護職員を対象とした研修に関する実績を豊富に有しているか。	10点	5点	2.0
2 配置予定者の実施体制 (30点)	① 研修責任者又は担当者は、新人看護職員が看護技術の要素を獲得できるような研修を適切に企画、実施する看護知識・技術を豊富に有しているか。	10点	5点	2.0
	② 研修責任者又は担当者は、新人教育担当者等が院内新人看護職員研修に必要な能力を獲得できるような研修を適切に企画、実施する教育体制に関する知識を豊富に有しているか。	10点	5点	2.0
	③ 研修責任者又は担当者は、新人看護職員の教育体制の構築等、組織マネジメントに携わった経歴を豊富に有しているか。	10点	5点	2.0
3 事業理解 (20点)	① 新人看護職員の看護実践能力の基礎形成、看護専門職業人としての責任・役割の理解並びに新人看護職員を支える教育担当者等の指導力向上が効果的に達成されるような研修内容となっているか。	15点	5点	3.0
	② 新型コロナウイルス対策のため看護学校での現場実習の機会が平常時より減少している状況を踏まえ、新人看護職員のリアリティショックへの対応に配慮した内容となっているか。	5点	5点	1.0
4 スケジュール (10点)	① 受講者が参加しやすいような研修スケジュールとなっているか。	10点	5点	2.0
5 受講環境等及び感染防止対策 (10点)	① e-ラーニング・オンライン受講の活用等、受講にあたっての感染リスクを軽減した実施体制であるか。 ② 会場、受講者、講師・職員について、「人と人との距離の確保」「マスクの着用」「手洗いなどの手指衛生」等、感染防止対策がとられているか。	10点	5点	2.0
6 個人情報保護等情報管理体制 (10点)	① 個人情報等の管理上の効果的な対策（運用上の仕組みやルール作り）について記述されているか。 ② 個人情報等の保護に関する従業者への効果的な研修対策（計画）について記述されているか。	10点	5点	2.0
7 経費 (10点)	① 評価点数は、次の式により求める。 評価点数＝10点×（最も安価な見積額÷当該提案者が提示する見積額） ※小数点以下切り捨て	10点		
合 計		100点		

- ・採点方法は、上記項目ごとに合計100点満点で評価を実施する。
- ・提案者が複数ある場合は、各委員の合計得点の総計が満点の6割以上の者のうち最も高い得点を獲得した者で、かつ、審査委員会の合議により認められた者を、最優秀提案者として選定する。
ただし、審査の結果、評価項目のうち全審査委員の得点の平均が満点の5割未満の項目が一以上ある提案者は、受託事業者として特定しない。
- ・提案者が1者の場合、評価基準による得点が6割以上で、かつ審査委員の合議により認められたものについては、当該提案者を受託事業者として特定することとする。
ただし、評価項目のうち全審査委員の得点の平均が満点の5割未満の項目が一以上ある場合は、受託事業者として特定しない。

項目別配点

審査（評価）	配点
極めて高い（極めて良好）	5
高い（良好）	4
中位（普通）	3
やや低い（やや不十分）	2
低い（不十分）	1

<別紙2>

公契約条例に関する遵守事項（特定公契約以外用）

本業務を受注しようとする者は、この遵守事項を理解した上で受注すること。

- 1 奈良県公契約条例の趣旨にのっとり、公契約の当事者としての社会的責任を自覚し、本業務を適正に履行すること。
- 2 本業務の履行に当たり、次に掲げる事項その他の法令を遵守すること。
 - ア 最低賃金法第4条第1項に規定する最低賃金の適用を受ける労働者に対し、同法第3条に規定する最低賃金額（同法第7条の規定の適用を受ける労働者については、同条の規定により減額して適用される額をいう。）以上の賃金（労働基準法第11条に規定する賃金をいう。）の支払を行うこと。
 - イ 健康保険法第48条の規定による被保険者（同法第3条第4項に規定する任意継続被保険者を除く。）の資格の取得に係る届出を行うこと。
 - ウ 厚生年金保険法第27条の規定による被保険者（同条に規定する70歳以上の使用される者を含む。）の資格の取得に係る届出を行うこと。
 - エ 雇用保険法第4条第1項に規定する被保険者について、同法第7条の規定による届出を行うこと。
 - オ 労働保険の保険料の徴収等に関する法律第4条の2第1項の規定による届出を行うこと。
- 3 本業務の一部を、他の者に請け負わせ、若しくは委託し、又は本業務の履行に他の者が雇用する労働者の派遣を受けようとするときは、当該他の者に対し、この遵守事項を周知し、遵守するよう指導すること。